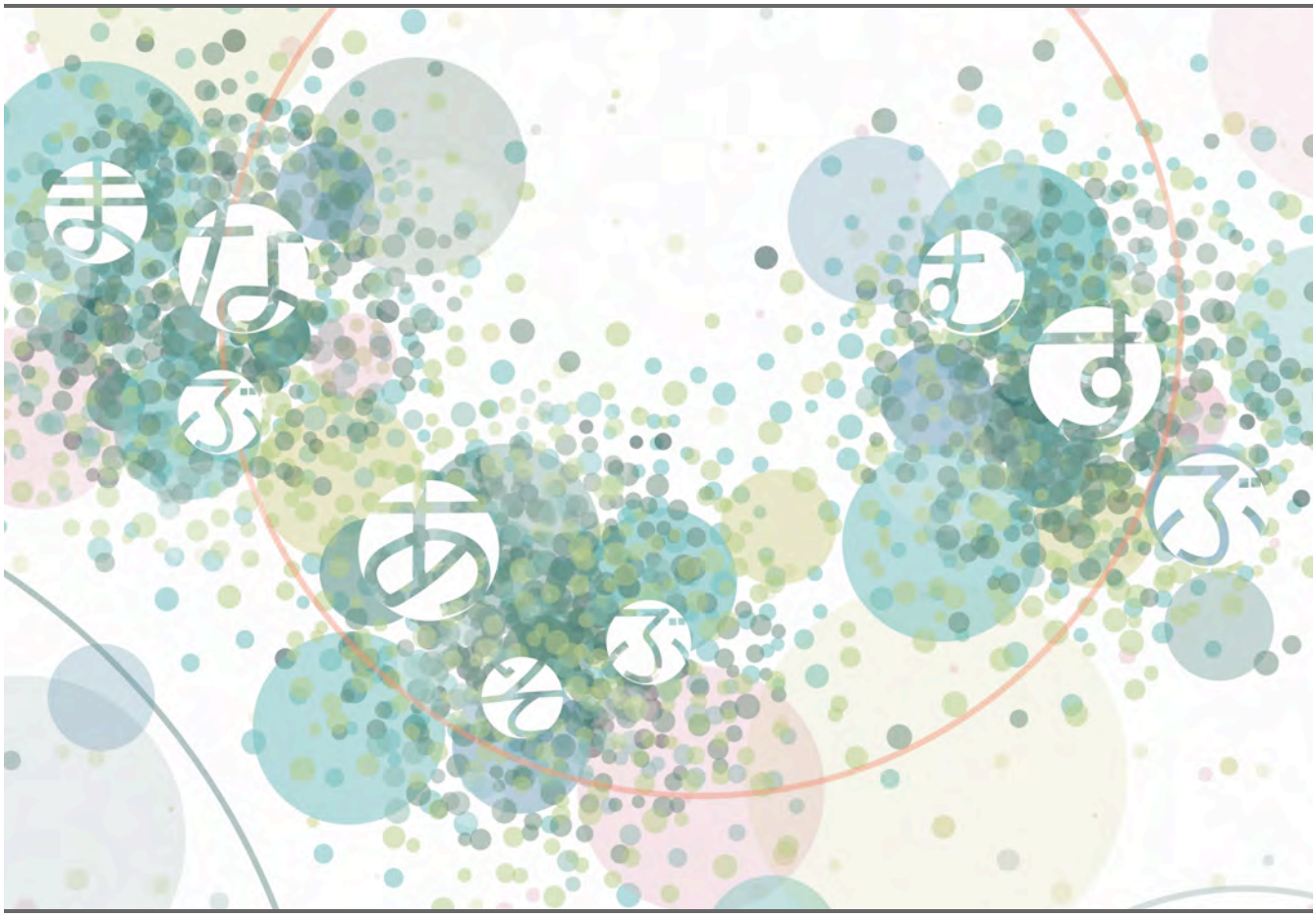
青森田中学園キャンパスグランドデザイン



AOMORI TANAKA EDUCATIONAL ACADEMY CAMPUS GRAND DESIGN PROJECT 2021

学校法人 青森田中学園

2021年

01 キャンパスグランドデザインの目的

キャンパスグランドデザイン策定の目的

学校法人青森田中学園は１９４６年の橋本キャンパスの創立から「愛あれ 、知恵あれ、真実あれ」の建学の精神のもと、地域と共に歩み続けてきた。現在、横内キャンパスが位置する青森市横内神田では 、昭和４５年（１９７０年）の１号館の建設を皮切りに大学の発展と共に施設の整備を進め 、現在では１１号館（屋内練習場）に至る建物と、運動場等の周辺施設を有している。この他、三内、原別および新町にキャンパスを開設し地域に根ざした教育機関として歩んできた 。

今後のキャンパス整備を考えるうえでは、建物を増やし敷地を拡げるということよりも 、利用者の使いやすさ、心地よさ、地域への広報的視点などの質的価値を高めることが重要であると考える 。

そこで学校法人青森田中学園では 、キャンパスの質的価値を高めることを目指し 、キャンパスグランドデザインを策定し、１０年後のキャンパスの姿に向けて計画的に整備を進めていく 。

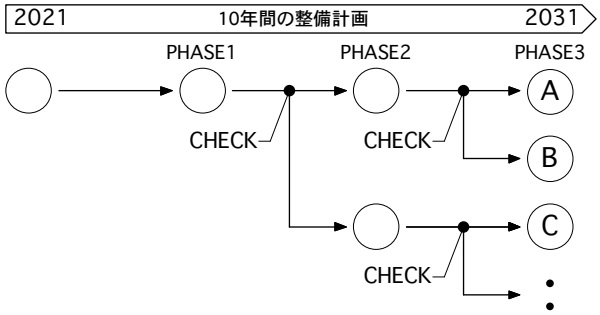
キャンパスグランドデザインとは

キャンパスグランドデザインは学校法人青森田中学園の全キャンパスの指針として位置づけ 、１０年後のキャンパスの理想像および１０年間の整備方針を示す。実施についてはメインキャンパスである横内キャンパスを対象とするが、その他のキャンパスも含めこの方針に沿って 、今後の状況に応じ軌道修正をしながら整備計画が進むことを想定している。

建学の精神に基づく各設置校の教育の充実はもちろん 、学生の授業以外での活動や地域の方々との交流など、キャンパスで起こる様々なアクティビティをより効果的に 、魅力的にするキャンパスを目指す。

策定の目的で示した質的価値は、場所の整備だけではなく、その場所でのアクティビティが活性化することで高まっていく。キャンパスグランドデザインは整備計画であるとともに 、その場所で起こるであろうアクティビティも想定し策定しており 、キャンパスグランドデザインをヒントに様々な活動において 、積極的なキャンパス活用を期待する。

キャンパスグランドデザインの位置づけ



ローリングプラン：状況に応じて軌道修正しながら発展していくイメージ

キャンパスグランドデザインのコンセプト

まなぶ　あそぶ　むすぶ

キャンパスは、学業、教育、研究の拠点であることはもちろん 、それ以外にも、重要な性質がある場所だと私たちは考えます。

学生にとっては、将来について思いを巡らせたり 、友人たちと昼食をとったり 、語り合ったりする場所といえます。卒業後も、先生や友人たちとの大切な思い出を共有する場所となるでしょう。教職員にとっては、仕事や生活の基盤といえます。そして、地域の方々にとっては、知識を得たり、他の方と交流したり 、散策したりする場所といえます。希望に満ち溢れた景観の中で、様々な人との未来に拓く関係が生まれ 、人生の基点・起点として記憶に残る場所は 、あなたの暮らしを豊かにし 、奥行きや広がりを持たせることができるでしょう 。

学校法人青森田中学園のキャンパスは 、「まなぶ」場であるとともに 、多くの人にとっての生活の場所、思い出の空間として、気軽に立ち寄り「あそぶ」ことができる場所になります 。そして、学生同士、学生と教員、大学と地域、さらには過去と現在と未来を「むすぶ」きっかけをつくります。

02 キャンパスの現状把握と課題整理

キャンパス建物配置

1970年に竣工した１号館を始めとして、キャンパス内には様々な建物が配置されており、一部は耐震改修や増築などを経て現在に至っている。日本を代表する建築家である毛綱毅曠氏（1941～2001）の設計による本部棟など当時の精神性を色濃く残している。

A：本部棟
B：１号館
C：２号館
D：３号館（第１体育館・瑞力館）
E：４号館（こぶし会館）
F：５号館
G：７号館
H：８号館（国際交流会館）
I：９号館（学術交流会館）
J：10号館（第２体育館）
K：11号館（屋内練習場）
L：プール棟

M：柔道場
N：ボクシングジム
O：サッカーコート
P：テニスコート
Q：野球場
R：ビオトープ
S：自適館
T：図書館
U：青森中央短大附属第一幼稚園
V：特別養護老人ホーム三思園
W：ラ・ペーの像（作成者：彫刻家　田村　進 氏）
毛綱毅曠建築事務所による設計建築物

ヒアリング・意見項目

ヒアリングの意見を課題や要望などに関係するキーワードに分解し、学園の特色も考慮しながら恣意的ではあるが分類した。ハードとソフトの要素が混在する一方で、両者のその複雑な関係性を示すことは難しかったことから、キャンパス全体を総合的に捉え、相互関係を丁寧に読み解き計画を進める必要があることがわかった。

機能性
- 防災拠点
- ユニバーサルデザイン
- 地域解放（学校から周辺地域へのまち歩き）
- 動線(雨・雪を避ける)
- 歩車分離
- 歩車共存
- 駐車場　インフラ整備
- 駐輪場
- 学内コモンスペース・休憩スペース
- 街灯・ストリートファニチャー
- サイン
- 広場（オープンスペース）

独自性
- 実学主義
- 生涯学習
- 国際性高い
- 多様性
- 学科・施設の多様性
- 人・人種の多様性
- 生物多様性

景観・自然
- エッジ
- 門扉
- フェンス
- 自然
- 樹木・並木道
- 庭、庭園
- ビオトープ
- 水景
- モニュメント
- 個性豊かな建物

交流・連携
- 地域連携（コミュニティ活動の活性化）
- 国際交流
- 産官学
- 学園内連携（施設・学生）
- 情報発信・広報（学内外へのデジタルサイネージによく発信）
- アクティビティの見える化
- 持続可能性・サスティナブル・SDGS
- キャンパスリソースの保存・活用

特色（青森田中学園報「こぶしの花」より抽出）

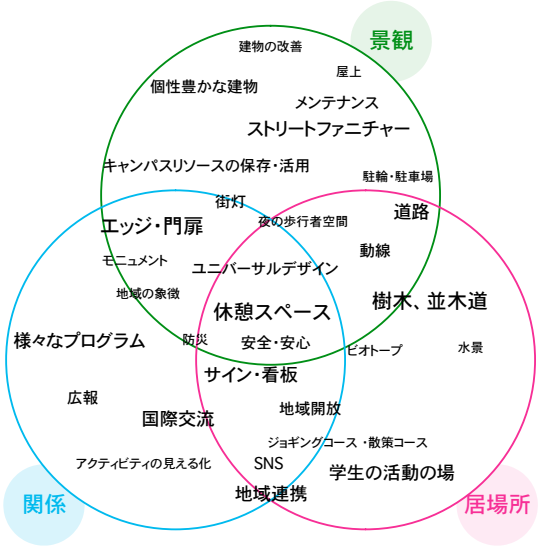
※ここでの「キャンパスリソース」とは建物について限定している

キーワード化と分類

キャンパスグランドデザインのコンセプトとキーワードとの関連性に着目して分析し、以下の３つのカテゴリーが見出された。

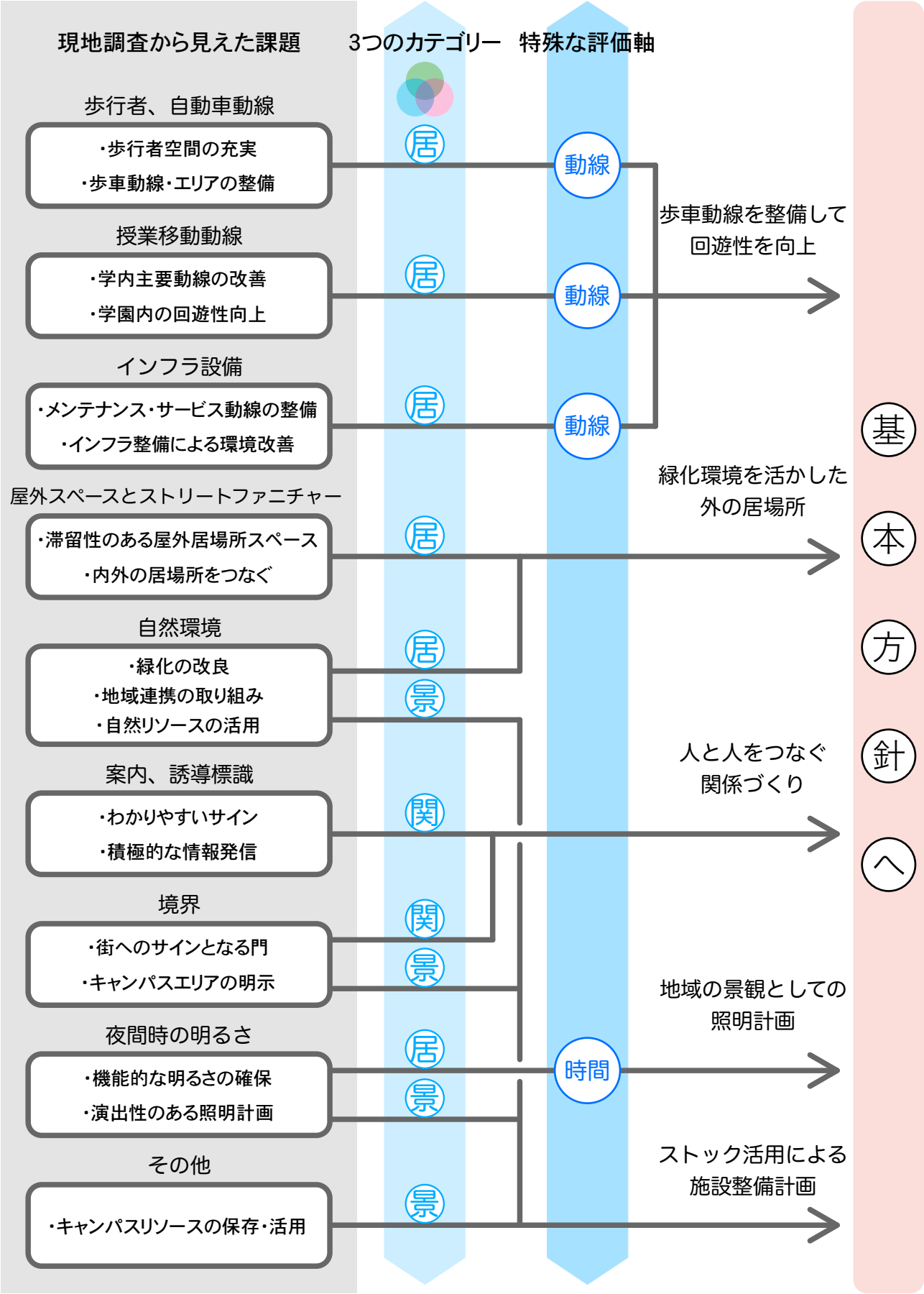
３つのカテゴリー
- **景観：拠点や基盤、景観というハードに関するもの**
- **居場所：場所に関するもの**
- **関係：共有や交流、関係に関するもの**

カテゴリーが相互に重なることでインタラクティブな関係を示しており、これらを考慮し方針を導くこととした。



現状把握から見える課題と方向性

調査結果から見えた課題をヒアリング調査での３つのカテゴリー 、そして特殊な評価軸で考察を行い、５つの方向性として大別した。

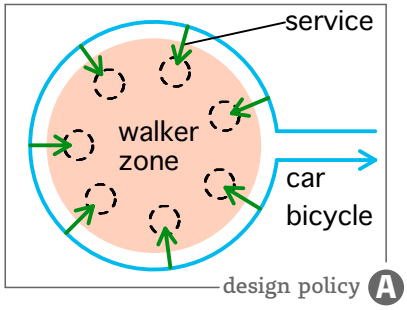


5つの基本方針

考察から得られた５つの方向性から以下の５つをキャンパスグランドデザインの基本方針として定め 、１０年後の未来へ向けて計画的に整備を進める 。

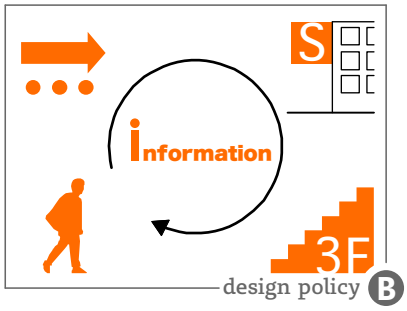
A 歩いてにぎわう街のようなキャンパス

誰もが快適に利用できるために 、ユニバーサルデザインに配慮した歩行者優先の安心なキャンパスを目指す 。様々なサービスを提供するバックヤードやメンテナンス動線を再整備し、個性的な建物が並ぶキャンパスを快適に歩いて巡るにぎや かな街のような屋外空間をつくる 。



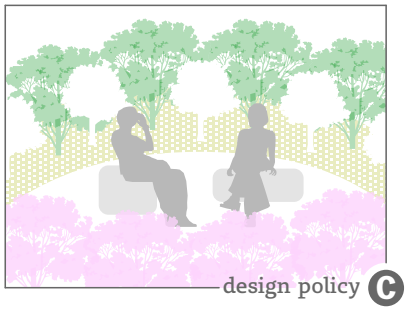
B 明確なサインが人をつなぐキャンパス

キャンパス内の様々な場所へ導く案内や様々な活動や情報を発信するために、誰にでも分かりやすくかつ魅力的なサインのためのガイドラインを策定する 。利用者を目的の場所へと的確に誘導するだけでなく 、一貫したデザインとすることで美しいキャンパス景観をつくる 。



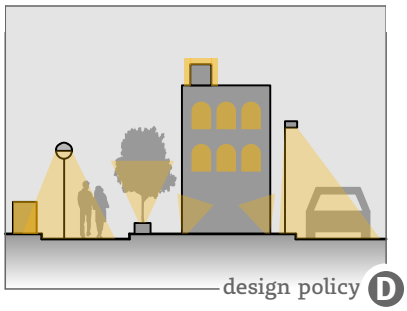
C 青森の豊かな自然と共生するキャンパス

長年維持してきた日本庭園や桜並木などの豊かな自然のリソースを活用し、より身近に青森の自然を感じることのできる魅力的な景観づくりを継続する 。様々な形で自然と接する居場所を整備し、さらに地域にも開放することで新たな憩いの場所となるキャンパスを目指す 。



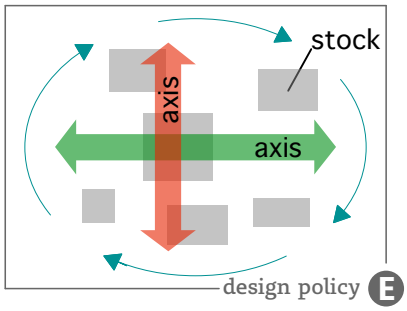
D 夜の景観がまちの灯りとなるキャンパス

キャンパスライフの様々なシーンに対応した演色性のある光環境を計画する。寮生活やサークル活動、休日のイベントなど夜間の屋外空間の魅力化を図ると ともに、周囲へあふれる灯りがシンボルとなって 、地域に根ざしたキャンパスとしての景観をつくる 。



E ストックを活かした回遊性のあるキャンパス

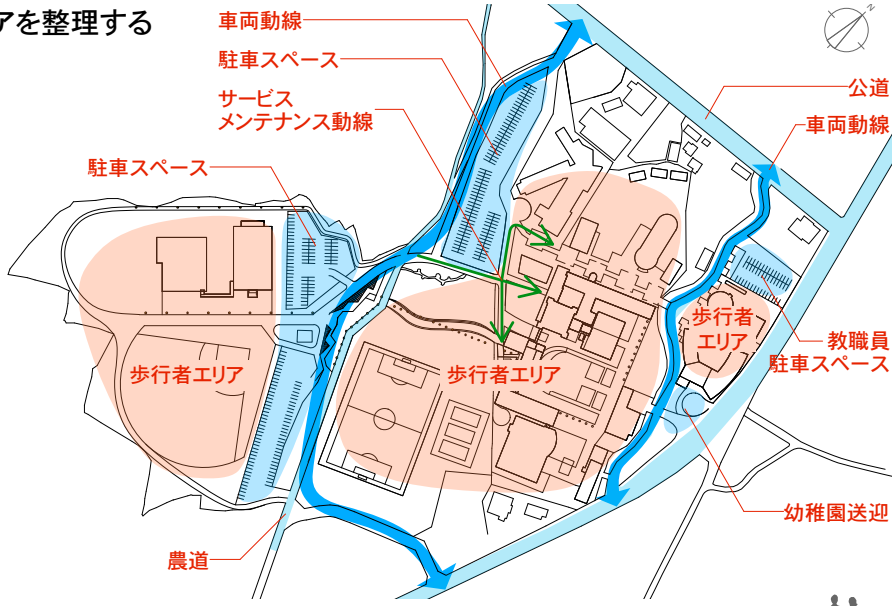
現在の施設配置や環境を活かした持続可能なキャンパスを目指す。正門から本部棟へと続く特徴的な軸線と各建物をつなぐ軸線を充実させることで、キャンパス全体の回遊性を高める。さらに魅力的な屋外空間を地域に開放することで、まちへとつながるキャンパスを目指す。



A 歩いてにぎわう街のようなキャンパス

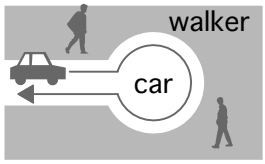
歩行者優先のキャンパスエリアを整理する

現在キャンパスでは歩行者動線と車両動線（自転車含む）が混在している。そこで、適度な歩車分離や歩車共存の手法を用いて、居心地のいい屋外空間の確保に努め、歩行者優先の安心なキャンパス空間の実現を目指す。



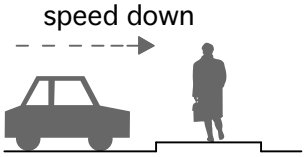
歩車分離のためのシステム

歩行者優先の空間を作るために、様々な方法を用いて計画する。



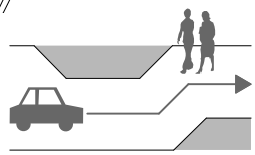
□クルドサック

車が旋回できる行き止まりをつくる



□ハンプ

段差を設け車の減速を促す



□ボンエルフ

車道を蛇行させ速度を抑制する

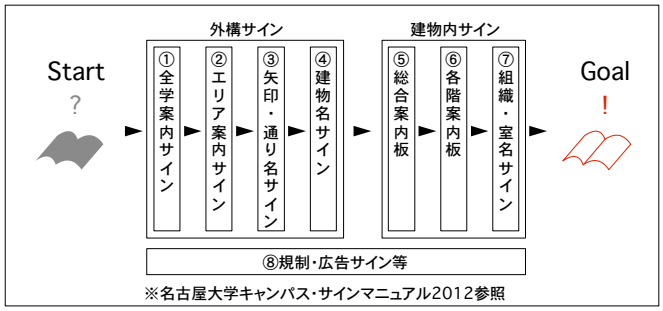
B 明確なサインが人をつなぐキャンパス

サイン（のデザイン）ガイドラインの作成

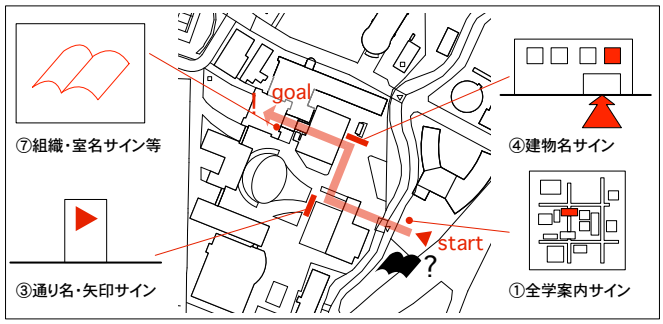
情報をわかりやすく伝えるために、サイン全体のルールを作り、発信する内容に合わせた設置方法を検討する。ルール作りに際しては、以下の点を考慮する。

・ルール作りで考慮する点

□明確なわかりやすい誘導システム
□デザインのガイドライン
□ユニバーサルデザインに配慮したサイン
□学園の特性を活かしたサイン
□調和のとれたグラフィカルデザイン
□更新性に優れたデザイン



階層的な誘導システム例



誘導システムの例

様々な情報発信方法

学園内で行われている様々な活動や、イベント情報の案内をはじめ、各種活動の学園外への情報発信をおこない、人と人をつなげるような情報ネットワーク の強化を目指す。

様々な情報発信

C 青森の豊かな自然と共生するキャンパス

地域に開かれた身近な緑

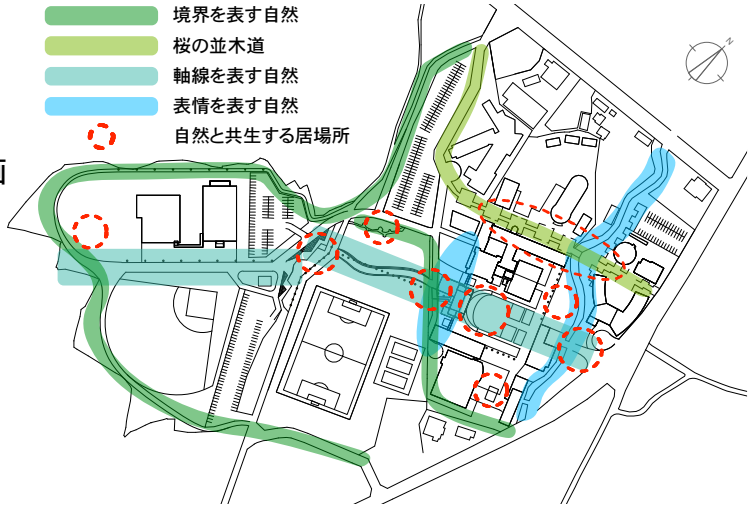
豊かな自然リソースを活かしたオープンスペースを地域に開放する。

既存樹木を活かした持続可能な植栽計画

既存の樹木の環境を改善し、管理・運営も含めた植栽計画をおこなう。

自然と共生する居場所づくり

個性的な建築群と多様な自然のリソースにより構成されているキャンパスに、学生や地域住民が参加して、様々な形で共生する居場所をつくる。



D 夜の景観がまちの灯りとなるキャンパス

居場所を彩る照明計画

キャンパスの夜間時の照度不足の改善をおこない、夜のキャンパスの景観をつくり、キャンパスライフの充実を目指す。

シーンに合わせた光の種類

キャンパスの様々なシーンに対応した、安全性、機能性、演出性のある光を整え、周囲へあふれる灯りがまちのシンボルとなるキャンパスを目指す。

E ストックを活かした回遊性のあるキャンパス

過去から未来へ継承する軸線

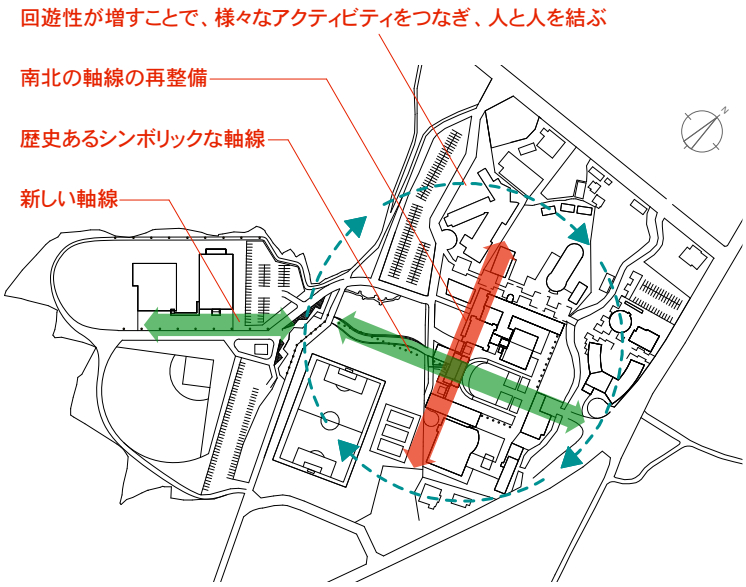
正門から本部棟まで延びるシンボリックな強い軸線は、西側エリアへと新しい軸線が延びている。この東西の軸線の再整備をおこない強化する。

南北の軸線の再整備

現在、各棟が渡り廊下で南北に連なっており移動頻度の高い通路であることから、この軸線をもう１つの重要なポテンシャルと考え再整備する。

キャンパスの回遊性

２つの軸線の再整備によりキャンパス全体の回遊性を増し、多種多様な動きや活動などの相互作用により、学内交流の促進を目指す。



10年後のキャンパスイメージ

個性的な建物群とその配置、豊かな自然環境など現在のリソ ースを活かしつつ、再整備した１０年後のキャンパスイメージを示す。教室に留まらない「まなぶ」ための場所と、人生を豊かにする「あそぶ」場所がキャンパスに点在し、それらを「むすぶ」道で構成された魅力的なキャンパス。学生、教職員に限らず、まちの新たな公共空間として開かれたにぎわいキャンパス。

ひとりひとりが輝く、１０年後のキャンパスを目指す。

学校法人
青森田中学園
Aomori Tanaka Educational Academy

発行　学校法人 青森田中学園
企画　キャンパスグランドデザインプロジェクト
編集　フクシアンドフクシ建築事務所